

# 平成21年度 たっち 事業報告書要約

平成21年度の概況

府中市子ども家庭支援センターたっちは、当法人が府中市よりサービス3事業とファミリー・サポート・センター事務局の計4事業を、受託運営している。  
 相談事業は府中市との連携を強める中、職員体制を拡充し、法人の持つ専門性を発揮した。「ひろば」の来館利用者数は年間ほぼ10万人、オープンから5年を経過し延べでは50万人を超えた。府中市外からの利用も少なくなく、多摩地域を中心に広範囲に認知されている。リフレッシュ保育は年間1,716名の利用(99%が市内利用)があり、前年度利用数を上回った。ファミリーサポート事業は、提供・依頼共に着実に会員数が増加している。

- 総合相談受付や情報コーナー及びひろば等で、地域の子育て情報を幅広く提供した。また、掃除の徹底や観葉植物等を設置するなど、館内の美化にも努めた。専任相談員を配置し、現場間の連携を強化し、府中市子育て支援課他他機関との連携は更に深まっている。
- ひろばで利用は一日平均138組282名の利用があり、利用者の求めるタイミングを意識し、声かけするよう努めた。安全確保のため、入館制限を実施したが、スタッフの工夫により、できる限り制限する回数を減らすことができた。
- 府中市子育て支援課及びたっち・しらとりの連携については、連絡会等での情報共有は図った。更なる連携強化に向けて、引き続き協議、検討をしていきたい。
- サービス自主評価(1月実施)  
 法人主催の研修をはじめ、市を通じた児童相談所等への体験研修や各種専門的研修を実施し、職員個々のスキルアップを図った。各部署間の連携強化に向けて、事例検討、対応に関するロールプレイ研修等を内部研修として実施した。毎月の防災訓練をはじめ、不審者対応の訓練も実施した。防災に関しては、支援課と連携し全体訓練をほぼ毎月の頻度で実施。また防犯については、次年度警備員の配置日数が増えるなど、安全対策強化、整備が着実に進んでいる。

平成21年度の課題

- 利用者ニーズを把握して、支援の充実を図る  
 利用者にとって、必要なサービス、必要な支援を提供する。
- 利用者の安心・安全を保障し、事業の充実を図る  
 防災・防犯のために研修、施設整備を行い、利用者が安心して過ごすことのできる施設であり続ける。
- 職員の資質・専門性の向上を図る  
 サービス評価の結果を踏まえ、会計の仕組みや事業を取り巻く制度・情勢の動向の理解を重点項目とする、チャレンジプランに取り組む。
- 「しらとり」との協働  
 要保護世帯への対応、サービス事業のための連携強化、ボランティア育成、受け入れのための基盤整備を行う。
- 事業運営における市職員との協働体制の更なる充実
- 職員が心身ともに健全に勤務できる環境整備  
 ・「加湿」「換気」「空調」の安定による快適な環境づくり。  
 ・ファミリー・サポート・センター会員のための居場所づくり。
- ライフ・ワーク・バランスの推進  
 前年度に引き続き、毎週1回「ノー残業デー」(府中市全庁水曜日)を設定し、超過勤務によるオーバーワークを抑制する。

	サービス利用・提供状況	平成21年度事業計画の執行評価
運営・管理	<p>平成17年3月のオープン以来、府中市の子育て支援の中核施設として、浸透し定着している。</p> <p>くる館内の合同防災訓練をはじめ、たっち内全体防災訓練をほぼ毎月実施した。</p> <p>不審者対策として子育て支援課と協議、21年度より土日祭日の警備体制が強化された。</p> <p>よりよい施設づくりに向け、利用者アンケートを実施した(1月:ひろば・リフレッシュ保育)。</p> <p>個人情報対策は、入職時研修に位置づけ徹底を図った。</p> <p>年間145名のボランティアを受け入れた。また新たな受託事業として市社協の協力を得て「子育て支援ボランティア育成講座」を実施した。</p> <p>子育て交流会「すやすや・ころりんクラブ(0歳児対象)」を各3回と「はいぼ(1歳児対象)」を各2回開催した。また子育て講座「カンガルータイム(2歳児母親向け、妊婦世帯向け、1歳児父親向け)」を3講座開催した。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>職員が心身ともに健全に業務に従事できるようマネジメントした。</li> <li>それぞれがスキルアップできる研修プログラムを構築実施した。              ・新入職員は、たっち・しらとり連動で、事業・サービス内容を学んだ。              ・専門職員はそれぞれのスキルに対応しより専門性を高めた。</li> <li>過去のデータに基づき、人員配置を検証した。</li> <li>子育て交流会・講座は部署の枠を超えて職員が企画・運営した。参加者からも好評を得た。</li> </ol>
総合相談	<p>常勤職員3名、非常勤職員1名と市相談員7名とで随時協議を重ね対応した。</p> <p>新規相談件数582件で、内容は養育不安、離婚や精神疾患、児童虐待に関するものなど多岐に渡り、来所・電話相談のほか、家庭訪問や関係機関との連携を積極的に行った。</p> <p>虐待の相談は全体の2割強で、家族からの相談・関係機関からの通報に加え、児からの相談もあった。</p> <p>ひろば登録受付や身体測定や社会資源紹介などで、気軽に相談してもらうことで予防的関わりが出来た。</p>	<p>市相談員と協働・役割分担しながら相談対応を行った。</p> <p>新規相談件数は、昨年度よりやや減少したが、様々な内容に応じた。虐待の相談割合は、若干減少した。関係機関と連携しながら対応した。受付窓口や保健室で充実した対応を行い、予防的関わりができた。</p>
ひろば	<p>登録総数は39,000名弱。平成20年度単年では、5,007名の新規登録者があり、その58%以上が市外在住者。年間利用者数の割合では28%強にとどまっており、市内外の割合は数年横ばいの状況である。</p> <p>利用者の安全確保のため、利用者が多い場合は制限を実施しているが、小学生の入館制限の認知、クライミングウォールの撤去、新型インフルエンザ等の影響もあり、年間の入館制限が減少した。</p> <p>利用児の多くは未就園児で、3歳までが93%強を占める。</p> <p>「スポットタイム」として、週3回歌・手遊びなどの時間を設け、その中で七夕やクリスマスなどの季節行事も実施した。また、終日、ボールで遊ぶ「ボールで遊ぼうの日」を数回、企画した。</p>	<p>年間利用者は保護者を含めて10万人弱だったが、大きな事故もなく運営できた。</p> <p>入館制限の実施が年間8日にとどまった。</p> <p>0歳児の利用者増加に伴い、遊具の見直しや遊びコーナーを新たに設置した。</p> <p>スポットタイムの参加を目的に来館する利用者も増えてきた。「ボールで遊ぼうの日」も利用者にも好評を得た。</p>
家族支援	<p>リフレッシュ保育新規登録者数は421名、利用者数は延べ1,716名で、ともに前年度より増加した。1歳児の利用比率が増加している。</p> <p>子どもも保護者も安心して利用できる保育室であるよう、こどもひとりひとりのありのままの姿を受け止め、保護者の気持ちに共感して、個別的な関わりを行った。</p> <p>保育士のスキルアップのため、施設内外の研修に交替で参加し、会議などを利用し共有した。また、定期的に避難訓練を実施し、緊急時に備えた。</p>	<p>実利用人数は前年度とほぼ変わらず。リピーター利用が多いと考えられる。さまざまな課題を抱えた子ども・保護者が増え、職員間の情報共有・検討を密に行った。また、随時相談員も連携できた。</p> <p>職員のスキルアップと、緊急時の備えとして、年間を通して取り組んだ。</p>
ファミリーサポート	<p>新規登録者は278名で会員数合計1,255名(依頼902名提供268名両方85名)となった。</p> <p>年間活動件数は5,180件、ペアリング(会員紹介)の件数は193件だった。一番多い活動は学校への送り、小学校から学童、通級への送り(障害児など)で1,816件、次いで保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預りで830件あった。</p> <p>会員が事業の趣旨を的確に理解し、安全な活動を行うため、依頼会員説明会や提供会員講習会の内容、事業説明を充実させた。提供会員のスキルアップのために、障害児へのサポート・幼児安全法講座を開催し、終了後に提供会員同士の交流の場としてお茶会を実施した。</p> <p>サプリーダーの活動として年11回の定例会で活動状況やよりよい運営について話し合ったほか、年2回の交流会を企画し、アロマテラピー講座や座談会を主体的に実施した。</p> <p>ファミリーサポート通信やホームページ、ポスター掲示を利用して広報活動に努めた。</p>	<p>退会者・入会者ともに多かった。ペアリング件数は微増している。障害児の受け入れが口コミで広まっている。</p> <p>大きな事故なく1年を終えることができた。</p> <p>参加人数を増やすことが今後の課題である。</p> <p>サプリーダー定例会が充実し、交流会も参加者が多かった。昨年度より会員が増加した。</p>